



「畑まるっと産直にんじん」の収穫作業をお手伝い!

畑で取れるにんじんには、大きささまざまな個性があるのに、商品として店頭で並ぶのは、まっすぐで一定の大きさのものだけ。それってどうなの? 規格外のにんじんにも価値がある! 東都生協は、畑で取れたにんじんを丸ごと全て買い取る仕組みをつくりました。それが「畑まるっと産直にんじん」です。

昨年12月には、(農)房総食料センター(千葉県香取市)の生産者、八木さんの畑に組合員と職員が援農に行き、一反(1,000平方メートル)分のにんじんを全て収穫。12月3日の商品案内「Sanbonsugi」で案内し、大きさ、形などを選別することなく全数量(約6.5トン)が茎付き、根っこ付き、土が付いたまま組合員に届けられました。



八木さんご家族



いろんな大きさや形のにんじん



収穫前の畑

東都生協の「産直」は「産地直結」

東都生協の「産直」は、商品が産地から届くだけのつながりではなく、生産者と組合員の思いを伝え合うことができる「産地直結」です。これからも産地とつながり続けていくためにも一緒に「これからの産直」を考えてみませんか。



黒澤さんご夫妻

東京から移住し、夫婦でJAやさとの有機栽培の新規生産者になった黒澤つや子さんにインタビューしました!

にんじん生産者、八木さんご夫妻にインタビュー

食べた感想が聞けるのが一番うれしいですね。組合員の皆さんには、畑にはいろんな大きさや形のにんじんがあることを知ってもらいたい。大きいものや小さいものなど、規格外の野菜も全て利用してもらいたいです。



立派なにんじんが収穫できました♪



参加者の感想

畑に到着した時には、掘り取り機で葉っぱは取り除かれ、にんじんの頭が少し見える位まで掘り起こされていました。中にはとても小さいもの、ごぼうのように細長くても色が白っぽいもの、2本が絡まって成長したような個性的な形のものもありました。

にんじんを引き抜き、コンテナに詰め込む作業は想像していた以上に大変でした。土に触れて癒やされたのか、不思議と疲れは感じませんでした。

なぜ東都生協に「野菜を出荷しよう」と思われたのですか?

東都生協は食べたいと思ってくれた人が注文してくれているので、「必ず食べてくれる」と思うとやりがいがあります。でも、スーパーに卸した野菜は「このまま陳列されただけで終わってしまうのかな、もしかしたら買われないで腐ってしまうのかな」と思うことがあります。



黒澤さんも出荷しているJAやさとの「皮ごと丸ごと やさとの有機野菜セット」のお届け例

総代会議での組合員の声より

産地直結、わたしも応援しています!

オンラインで遠くの産地とつながった時、「生産者さんに直接質問できた!」と子どもが大喜びでした。

「生産者カード」にコメントを書いて、生産者に感謝を伝えるようにしています。

約束米のような登録商品を増やし、必ず購入するので安心して生産できる仕組みづくりがいちばん大事!

「食べる約束、作る約束」この言葉が好きです! 生産者と消費者との相互理解が大切。

安全・安心で、なるべく国産のものを東都生協で購入し、健康維持! を心掛けたい。



組合員へのメッセージをお願いします

「規格外」の野菜も、本当は食べてもらいたいです。また、うちの野菜を「どんなふうに使ってくださっているのか」が知りたいので、お料理の写真などをSNSなどで投稿してもらえたらうれしいな、と思います。

※組合員から黒澤さんご夫妻に届けられるメッセージの数々



新規就農をして感じたことは?

「農業は晴耕雨読」というイメージでしたが「そうではなかった」と思いました。夜中でも台風時でも注文があれば、かっぱを羽織って畑へ収穫に行かなければならない。そこは想像と違いました。



お休みはどのくらいあるのですか?

全く仕事をしないのは年に1、2日くらいです。「ハワイに行きたい!」とは思わなくなりました。農業は「種まきと収穫」のイメージだったのですが、やってみると1年中何らかの作業があります。最近は夏が暑過ぎて野菜もうまく育たないし、日中外で作業できない時間ができてしまっています。そんな心が折れそうな時は、皆さんから頂いたメッセージ*を読んで、励みにしています。

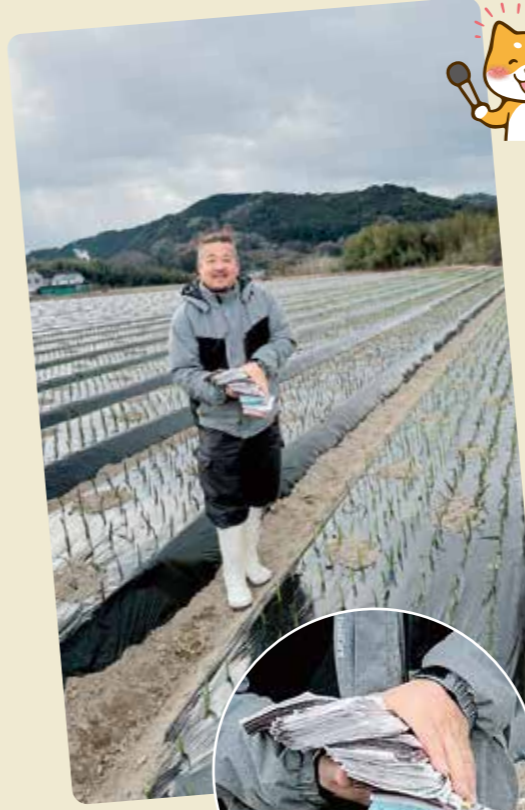


お家でできる援農

～玉ねぎの根切りで産地のお手伝い!



奈良五條産直組合 根付き玉ねぎ(奈良県産)生産者の
益田 吉仁さんにインタビュー



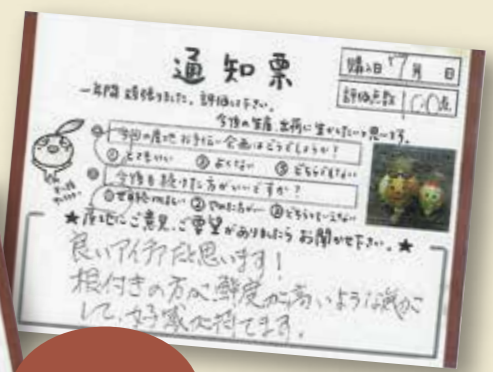
玉ねぎ畑の真中で
組合員から届いた
メッセージを
両手に持つ益田さん

東都生協の職員が視察時に倉庫での作業を見て、「玉ねぎ1個ずつ根切りをするのですか?」とびっくりされました。生産者は収穫をしたらそれでおしまいではないのです。根っこをきちんと落とさないと出荷できない。それがとても大変な作業なのです。

生産者カードにそれらの事情を載せ「根付き玉ねぎ」としてネット限定で組合員にお届けしたところ「根が付いていても気にならない。産地に行ったらもりで援農ができる」と評判が良く、次の年には商品案内「Sanbonsugi」で案内ができるようになりました。

「根っこが付いている玉ねぎは子どもへの食育になっています」と、若い組合員さんからたくさんのメッセージが届いた時はとてもうれしかったです。

出荷前に大変な作業があったのだとびっくりしました。こんなことでお手伝いになるのだったらこれからもどんどん根っこ付きでOKです。



根付き玉ねぎ
声カード

玉ねぎに限らず小さい物・形が少し悪い物も立派な商品です。これからは日本の農業が元気であり続けてほしい。

生産者に向けてメッセージを書こう!

野菜・果物に付いてくる、「生産者カード」を知っていますか? 生産者からのメッセージや青果物を使ったレシピと一緒に掲載されていることも。皆さんも食べた感想や「こんな風に食べたよ!」「おいしかったよ、ありがとう!」のメッセージを送って、お気に入りの産地・生産者さんを応援してみませんか?



生産者にお話を伺う中で、「何かあった時、私たちは食べるものには困りませんが、都会で生活する皆さんはどうするのでしょうか?」—その言葉にハッとしました。確かに、食料をお金だけで手に入れられる時代ではなくなってきています。産地では、気候変動など環境の変化や人手不足、高齢化も進んでいます。そうした中でも生産者の皆さんは「作

る約束」として、私たち組合員のことを思い、安全・安心な農作物を作り続けてくれています。今ある「産地直結」の関係を維持するためには、産地の現状を理解し、「食べる約束」をして利用を続けることです。ぜひあなたも、このことを身近な人に伝えていきませんか?

「未来につなぐ募金」は、組合員から集まった募金を東都生協の商品に換えて、「子ども食堂」や「フードパントリー」などを行っている団体を支援するかたちを取っています。次回の注文から、優しさのお裾分け、始めませんか。

商品の注文と一緒に支援できます

募金方法は、注文書の特別企画欄に【365920】と記入し、数量欄に口数を記入します。1口200円です。Web注文サイト「とうとねっ」と、電話注文でも募金ができます。



未来につなぐ募金

誰もが安心して暮らせる社会のために

団体名 杉並・ワーカーズ まちの縁がわ なかまの家

設立 2013年10月 代表者 浅沼 幸子さん
活動拠点 杉並区成田西、まちのほっとスペース、なかまの家
活動内容 居場所づくり、まちづくり推進 メンバー 非常勤スタッフ 18人
ボランティアの受け入れ あり
広報ツール Instagram、児童館・青少年センター・社会福祉協議会を通しての広報

助成団体紹介 Vol.33

まちのほっとスペースになっています

荻窪駅からバスに乗って10分ほどの静かな住宅街の一軒家が「なかまの家」。「こんにちは」と近くの児童館から小学生～高校生の子どもたちが指導員に付き添われて、にぎやかに歩いてきました。「いらっしゃい、今日はパンジーの水やりからお願いしようかな」とスタッフが笑顔で迎えます。働いていたNPOのヘルパーステーションに空き家の提供があり、卒業したメンバーで「地域で居場所づくりを」と立ち上げたワーカーズ。コロナ禍で給食が食べられなくなり困っている子どもたちがいることを知ったのが、この活動のきっかけです。

今日のランチはちらし寿司、サラダ、なます、クリーム



今日の仲間たち(右端:代表浅沼さん)

シチュー。子どもたちはエプロン、三角巾を身に着け、スタッフが用意した具を寿司飯に混ぜ込み、お皿にきれいに盛り付けます。野菜がふんだんに入っていてどれもおいしそう。おかずをわいわいトレードしたり何杯もおかわりしたり。「ここに初めて来た時もちらし寿司だった」「この前学校でね、」「今、部活に3つも入ってる」「数学は役に立つのかな」など、おしゃべりにも花が咲きます。



今日のメニュー

縁側から「こんにちは」と声が。「私はここに月7回も来ているのよ」—この家では食堂のほか、絵画、習字、囲碁、コーラス、手芸などの講座も行われており、いつ来ても誰か知り合いに会えるそう。

月・水・金のランチ提供と各種講座の利用料を活用して行われている、このみんなの食堂。代表の浅沼さんが一番うれしかったことは、小学生だった男の子が高校に入学が決まると報告に来てくれたことだそうです。「お近くにお住まいの方はぜひ遊びに来てください」

column

助成報告

組合員の思いが込められた募金を東都生協の商品に換えてお届けしています

東都生協では、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す活動(団体)を応援、助成を行っています。きっかけは地域のフードバンク団体で活動している組合員からの「東都生協の安全・安心な食べ物を届けたい」という声でした。2017年12月から募金を開始、2018年4月から助成を始めています。

2026年度も多くの団体からの申請があり、選考の結果、新規2団体、継続34団体が決まりました。引き続き皆さまからの募金をお待ちしています。(募金方法は上記参照)

未来につなぐ募金(2025年度末残額)	5,675,002円
2025年度助成額(予定)	2,091,632円(供給価・税込み)
2026年度助成上限	2,160,000円(36団体)